

希望と信念と熱意をもち、 光を信じ続ける力養う

恵泉女学園大学 キリスト教教育主任

宇野 緑



と熱意とは口はほったいと思われながら、向こう気と呼んでくださってもかまいません。私は私の生徒たちのために、新しい教育の分野を開きたいのです」

(中略)

が支配されそうになったのではないだろうか。私もその一人です。

創立者河井道が著した『スライディング・ドア』に1943年10月、戦時の只中、文部省に園芸を専門とする学校の創設に向けて、計画の提出と許可を得るためのやり取りが記されています。そこでは、担当者から資金、土地、建物の確認がされますが、河井は何もない、と答えます。その後はこうあります。

春、多摩センターから初々しい新人生を乗せて出発したスクールバスは、桜並木を抜けてキャンバスへ到着。そして、バスから降りれば、芽吹き始めた柔らかな緑の木々、優しく咲く花々が一人ひとり

をあたたくく招き入れる…、はずでした。たぐさんの希望と夢を抱えた学生たちは通学することを閉ざされ、新学期がスタート。多くの方々があまりに大きな困難さに、諦めや無力感に心

「だったら、あなたがもっているのはどういったものなのですか？」

「希望と信念と熱意のほか何もありません。希望と信念

「希望と信念と熱意のほか何もありません」

今年度、恵泉女学園大学では今年から「そで道」を教職員で拓(ひら)いていくことと心を合わせていくことができ、5月の連休明けよりオンライン授業が開始できるよう整えられ、スタートいたしました。と同時に、創立以来の



チャペルのようす

「何と力強い言葉なのだろうか。どのような状況にあっても、「生徒のために」との希望と信念と熱意によって、必要なもの、大切なものは与えられ、道が開かれる、との宣言です。再度、創立者の歩みに大きな励ましを得たのでした。

今年度、恵泉女学園大学では今年から「そで道」を教職員で拓(ひら)いていくことと心を合わせていくことができ、5月の連休明けよりオンライン授業が開始できるよう整えられ、スタートいたしました。と同時に、創立以来の

1年生の必修授業『キリスト教学入門』ではチャペルアワーを視聴し、レポートすることを課題としていました。このような声がありました。「チャペルアワーは、最初は正直あまり関心がなかったが、毎週視聴するだけで、毎週見ていくうちに聖書の言葉の意味やそこに隠された思い

大切な時間「チャペルアワー」も週替わりでオンライン配信を始めました。(チャペルで撮影し、学内者のみの限定公開)

新入生の中にはチャペルはもちろん、キャンバスにまだ一度も来ることができていない学生もいますので、映像の中で、チャペルアワーの始まりを告げるカリヨンの音色に合わせ、日々彩りが変化するキャンパスの木々、草花の写真を添えました。心を塞(ふさ)ぎがちな今、例年と変わらない豊かな自然があふれるキャンパスの様子が少しでも伝われば、と願いながら。

や、気持ち、また生きる意味など多くのことを感じるようになり、自分を見つめ直す機会にもなりました。この数か月で自分が存在していることの尊さやよりよい生き方を、キリスト教を通して学ぶことができました。それと同時に広い視野をもって世界に目を向けることによって、生きる意味や喜びを深く考えさせられました。私が私らしく生きるきっかけを見つけたような気がします。後期もたくさんの方を考へ、多くを学びたいと思えます」

このような声を多くの学生から聴くことができ、あらためて、チャペルアワーでは「希望」が語り続けられていたのだということに気づくことができました。



これまで私は、「礼拝はナマものであり、語られたメッセージはその時だからこそ与えられる恵み」と考え、オンライン配信に抵抗がなかったわけではありませぬ。また、恵泉のチャペルのもつ響きとぬくもりを感じながら過ごすからこそその時間だと考えていました。しかし、今思うことは、これまではチャペルに集えなかった方々を切り捨てていたのではなかったのか、ということ。動画配信にしたことにより、視聴が可能な時間と場所を自身の都合に合わせていくことができます。特に、通常ですと教職員は業務や学生対応に追われ、なかなかチャペルに足を運ぶことがかなわない方も多くおられますから、このスタイルは同じ「時間」を皆さんと共有できている、と考えられます。

コロナ禍の今、様々な制限のある中だからこそ、見つけることのできた新たな出会いに感謝し、この与えられた状況の中、希望と信念と熱意をもって、この先に訪れる光を信じ続ける力を養うため、チャペルアワーを発信していきたい、と強く願っています。

「希望と信念と熱意のほか何もありません。希望と信念と熱意のほか何もありません」